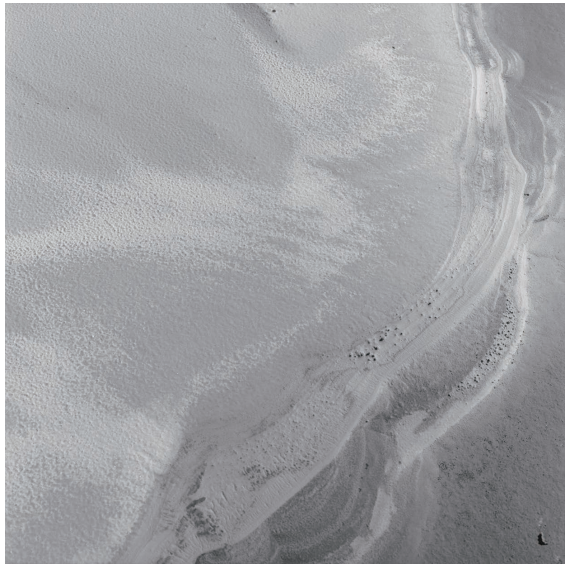


〈10月企画展〉
niigata eya exhibition 584

イメージと抽象

佐佐木 實
津田 真帆
中島 佳秀
湊 雅博

10／17［木］—30［水］

絵屋
2019
10
October

2［水］→10［木］	安藤喜治写真展「Stand Still」
講座 11［金］	華雪による書と篆刻の講座・第3期〈書〉
講座 12［土］	華雪による書と篆刻の講座・第3期〈篆刻〉
17［木］→30［水］	イメージと抽象 佐佐木 實・津田 真帆・中島 佳秀・湊 雅博
Event 25［金］	19:00-20:30 ギャラリートーク

開廊時間／11:00-18:00（最終日17:00まで）
※10月の休廊日／1日・11〜16日・31日

表紙／湊雅博「FUSION」ゼラチン・シルバープリント 23.5×23.5cm
左／津田真帆「明るみへ向かう花」2019年 ミクストメディア／紙 19.5×19.5cm

イメージと抽象

抽象的は、具体性がなく、よく分からないという意味で言われる。イメージは抽象的なものを具体的に伝えようとして使われる。けれど、たとえば中島佳秀の絵は、ケーキというイメージを描きながら、とても抽象的に（＝何の絵なのか分かりにくく）見える。

イメージと抽象の境はどこにあるのだろう。

デュブーシェは言う。「イメージの火、それは、またもういちど、遅れだ。過剰な生のうえで燃え、尽きさせる遅れ」…「その尽き果てるときへとたどりついたイメージ。たどりつく、おびやかされゆれている終わりへと」…「その尽きるぎりぎりのはしで、イメージは始まる。奇妙な瞬間だ」。

ケーキ（というイメージ）が燃えて尽き、中島の絵（というイメージ）が始まる、瞬時の、目をみはるような転換、変容が、抽象なのだと思う。

そんな跳躍を、ここに紹介する４人の表現はみな生きている。

（企画者：大倉 宏）

＊引用はアンドレ・デュブーシェ「イメージ、尽き果てるときに」（吉田加南子訳）より

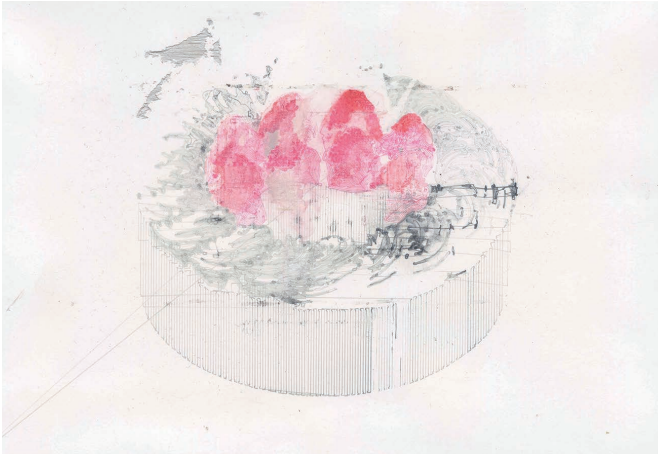
佐佐木實（ささき みのる）：盛岡市生まれ。東京藝術大学大学院修了（美学）。フランス国立社会科学高等研究院博士課程言語学専攻修了。制作と学問の双方から言葉／文字を記す行為に向かいあい、近年は『ヒ象る』『イ充つ』など一つの片仮名から着想を広げインスタレーション性の強い作品を制作する。2011・14・15・17年新潟絵屋で個展開催。www.minorusasaki.com

津田真帆（つだ まほ）：1966年東京都生まれ。東京藝術大学卒業。子どもの絵画・造形教室に携わる。装丁・挿絵の作品に『デ・ラ・メア物語集』、絵本に『巨男/おおおとこの話』『うずまき・うずまき・かたつむり』『あかちゃんがいるの！』、『わたしのあかちゃん』、『あきですよ』がある。2006・08・10・12・14・17年新潟絵屋で個展開催。

中島佳秀（なかじま よしひで）：1975年京都市生まれ。都市計画・建築を学んだ後、独学で平面の制作を始める。2008年より個展を中心に平面作品の発表を行う。2010・11・16・17年新潟絵屋で個展開催。
https://www.instagram.com/yoshihide_nakajima/

湊雅博（みなと まさひろ）：写真家としての作品制作する傍らディレクターとして風景に係わる写真家の新たな表現と可能性を表象する「リフレクション」展を開催。本年5月には自身の作品集『FUSION：環』を刊行し森岡書店銀座店で記念展を開催する。www.masahirominato.com

佐佐木實　左／「イ」2018年 鉛筆・色鉛筆・木炭・パステル・水彩・インク／紙 67.0×53.3×2.7cm
右／「イ」2019年 鉛筆・色鉛筆・インク・ビール／紙 99.2×51.2cm



中島佳秀「cakes」2017-2019年 ミクストメディア／紙 21.0×29.7cm

10/25［金］19:00-20:30 ◆ギャラリートーク
※要予約・詳細裏面

作家在廊予定日◆佐佐木實：10/17・25・26◆津田真帆：10/25・26◆中島佳秀：10/20◆湊雅博：10/25・26